

した。

一九二一年(大正一〇年)五月、東京精神病学会例会で、ペンシルヴァニア精神薄弱児訓練学校医長の Martin Barr が「精神薄弱の予防」の講演で断種法の必要性をいいたとき、呉は否定的慎重論をのべた。

(平成十六年一月例会)

### 済生学舎を中心とした野口英世の細菌学への道程

——横浜海港検疫所でのペスト菌発見迄——

唐沢 信安・殿崎 正明

(一) はじめに

左手の火傷による不自由な野口英世が、どのようにして細菌学への道に進んだかについて述べてみたい。

まず、野口が会津若松で、渡部鼎の下で如何なる医学教育を受けたかを報告したい。

次に済生学舎に入学後の勉学で、細菌学・特に「ペスト菌」の顕微鏡学的実施演習が行われたことが、同級生の原玄一郎医師の遺品から実証されたので、「ペスト菌」を中心に野口の済生学舎時代について報告したい。

更に順天堂時代に入り、ここでは、済生学舎出身の医学者、菅野徹三に指導を受け、論文の書き方を身につけたことを述べたい。その時、野口は志賀潔の「赤痢菌」についての論文

が官報に掲載されるや、急に北里柴三郎の伝染病研究所への勤務を熱望し、順天堂の佐藤進・血脇守之助・菅野徹三と相談して伝染病研究所に入り、本格的な細菌学を学んだ。そこには、済生学舎出身の医学者、浅川範彦が、三ヶ月の「細菌学実習」の講習会責任者として活躍していた。

野口は、伝染病研究所で、細菌の検出法・培養法・血清の免疫学的治療法を身につけて、明治三十二年六月二十二日、横浜海港検疫所で、東洋郵船の「亜米利加丸」の船員より「ペスト菌」を検出した。以下順を追ってその経過を報告したい。

(二) 渡部鼎の指導した細菌学・病理学

現在、東京大学医科学研究所(旧伝染病研究所)にある野口の自筆の履歴書によると、○明治二十七年九月一日より、明治二十九年九月五日迄、ドクトル渡部鼎氏に就き、基礎医学及び英語を学ぶ……と記している。

渡部鼎は、アメリカ、カリフォルニア大学医学部に留学し、明治二十一年に卒業して、「肺炎について」の論文を書き、ドクトルの資格を得た人物である。

明治二十七年から二十九年頃カールデンの著者「病理学的・細菌学的検究術式綱要」を教科書として、原書で病理学、細菌学の組織の標本の作り方、染色の仕方、顕微鏡の見方を講述している。この本は野口の医学への基礎的学習の書となり、明治三十二年に、野口と渡部の英訳書として出版された。

(三) 済生学舎での「ペスト菌」実習

○明治二十九年十一月四日より、明治三十年八月三十日迄、

済生学舎に医術を学ぶ。

○明治三十年十月、東京に於ける内務省医術開業後期試験に合格す……。

右のように野口は履歴書に記している。

当時野口と同級生であった岡山県高梁町出身の「原玄一郎」の遺品が、孫の関西医科大学公衆衛生学教授原一郎先生の手により大学に寄贈された。その品は「顕微鏡科実地演習」で作られた病理学・細菌学のプレパラート八十六枚を収納した「標本箱」である。

その中に、ペスト菌の標本が十枚含まれていた。筆者は大学の南正康公衆衛生学教授のご指導を得て、顕微鏡写真を撮影した。

ペスト菌は、二箇の核を含む両端が半円形の小桿菌で、一箇又は二箇、時には数箇連なつて、現在も鮮明に確認された。

ペスト菌は、北里柴三郎とバーストール研究所のエルザンにより、香港でペスト流行時の明治三十七年に最初に（ペスト菌が）発見された。以来二年後の明治二十九年三月三十日に、横浜港に入港した米国郵船「ゲリーック号」の乗組員李亨（十七歳）が上陸して、ペストを発病し、屍体より、伝染病研究所の高木友枝が菌を確認している。

同年（明治二十九年）の十二月に、済生学舎では別のペスト患者を用いて「顕微鏡科実地演習」を三ヶ月行い、ペスト菌の標本を学生に作らせている。原玄一郎の標本箱の扉に「明治二十九年東京に於いて、原玄一郎製」と筆で大きく記入し

ている。当時の細菌学の講師は、東京帝国大学医科大学衛生学助教授の坪井次郎であった。衛生学講師は横手千代之助医学士であった。二人によりペスト患者が済生学舎の顕微鏡科実習用を持ちこまれたと推察する。かくして、野口は、坪井次郎に講述されたと思える「細菌学手記」を残している（ドイツ留学中に、ペツテニコッフエル及びコッホから学んだ細菌学が講述された）。

#### （四）順天堂時代から伝染病研究所時代

野口は医術開業試験に合格すると、血脇守之助の口添えて順天堂に勤務した。そこには菅野徹三という済生学舎出身の学者がいて、論文の書き方、図書館の利用法を教授した。野口は更に、明治三十一年十月より、伝染病研究所に入り、本格的に細菌学を身につけた。やはり済生学舎出身の浅川範彦第三部長の指導による。かくして横浜海港検疫所にてアメリカ丸より、ペスト患者の菌を検出した。

（平成十六年三月例会）

#### 日本における病院歯科の軌跡

柳原悠紀田郎

歯科医療も基本的には医療の中に含まれるわけであるが、実際には歯科医療は幾つかの特異な性格があるので、医療とは別個に取り扱われている。こういうことを病院歯科の軌跡